



1969年1月25日  
第68号  
発行 新潟県 3町131場  
電話 代表(4) 3131  
商工 観光 課  
住民基本台帳人口  
(昭和43年12月31日現在)  
総人口 27,612人  
男 13,307人 女 14,305人  
世帯数 5,977

### 各競争会でレベルアップ

## 栄光の10団体・55人

### 優秀農家 あすの農業を示唆

昭和四十三年年度農業表彰式が一月十八日新設された養鶏場ビルで行われました。町では、各競争会で、みことな成績を取った十団体・五十五人の入賞者に江崎町長が賞品と賞状を贈り、たたえました。

◎米多収種作会の部  
個人部  
一位 長谷川善吉(十区)  
二位 山吉小七(竹野町) 石田保  
三位 山下和助(大瀧町) 徳吉源  
(下和納) 竹野町 徳吉源  
(安良) 田中栄一(十区)  
加藤保(遊明) 徳川耕作  
(赤さび) 長谷川文雄(河井)  
(合沢鉄雄) 川野 鶴登虎  
(並岡) 石山忠雄(仁鶴)  
今井芳明(十二区)  
団体部  
一位 仁鶴農家組合(代表大橋栄)  
二位 河井農家組合(代表長谷川徳一)

◎集団栽培の部  
一位 安良農団栽培組合(代表大若年也)  
二位 前田農団栽培組合(代表内山勘右門)  
三位 桜林農団栽培組合(代表田辺徳一)  
努力賞 柿島穂積会(代表藤原吉久) 松山農団栽培組合(代表斎藤多作) 白山農団栽培組合(代表徳川耕一)  
◎豚共進会の部  
一位 玉木和助(竹野町)  
二位 伊藤三郎(馬廻) 岡村

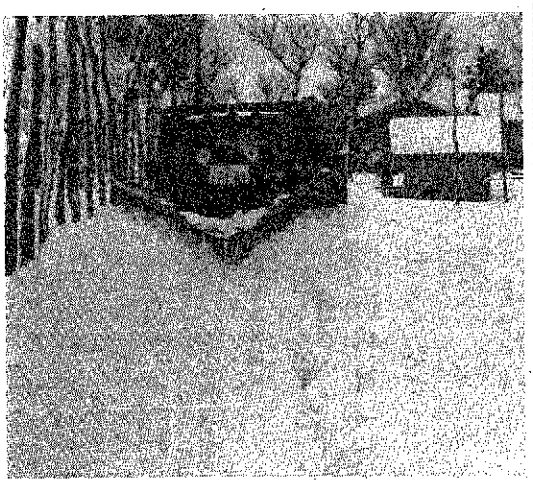
◎スイカ園場品評会の部  
一位 高杉英夫(四ツ郷屋)  
二位 高杉秀英(四ツ郷屋) 山川吉次(越前浜)  
三位 外山清博(四ツ郷屋) 川島善朝(越前浜) 高杉高松(四ツ郷屋) 鈴木信光(四ツ郷屋) 河村一良(松山)  
◎球根園場品評会の部  
一位 乙川清雄(四ツ郷屋)  
二位 高杉英夫(四ツ郷屋) 小川善一(越前浜)  
三位 市橋三郎(松野屋) 高杉茂雄(四ツ郷屋) 共進農場(四ツ郷屋) 山下嘉博(松山)

◎地方の増産に基の肥料利用  
●葉たばこカッター  
葉たばこ収穫後、葉は焼き捨てられ、畑内に放置されてきました。が、葉たばこカッターの共同導入で有効な肥料利用を計ることになりました。  
●基を短く切つて堆肥にすることによって、地方の増産と肥料購入減の二石一鳥が約束されました。導入数は百台、事業費四十五万円(県費十五万円、町費一万二

◎園場の整備事業  
角田山ろくが美田に生まれ変わり、園場の整備事業が主となり、園場整備事業を行なったものです。  
同地区の田んぼは未整理区画のうち最悪がせまく、また、用排水路も不備で米づくりに不自由な面が多く、近代農業を遂げないため、園場整備事業を行なったものです。

◎集団栽培組合に補助  
稲作栽培に資する良質、多収による技術の普及を良質、多収に協定作業と機械の共同利用による経費の節減をはかるため、次の各集団に対し、重点技術指導費と活動費の補助に県補助金が交付され米づくりの農家の地域振興を目的とします。  
●農家団体の生産機械共同事業 白山農団栽培組合(代表徳川耕一) 県費十二万円  
●農家団体の生産機械共同事業 白山農団栽培組合(代表徳川耕一) 県費十二万円  
●農家団体の生産機械共同事業 白山農団栽培組合(代表徳川耕一) 県費十二万円

●農家団体の生産機械共同事業 白山農団栽培組合(代表徳川耕一) 県費十二万円  
●農家団体の生産機械共同事業 白山農団栽培組合(代表徳川耕一) 県費十二万円  
●農家団体の生産機械共同事業 白山農団栽培組合(代表徳川耕一) 県費十二万円



### 動脈の道路確保に全力をあげるタンブ除雪車

昨年購入したタンブトラクタ兼除雪車が、新年早々の町にわたる豪雪の除雪で大活躍、町民みなさんに感謝されました。このタンブ除雪車は全輪駆動で狭い道路も通行が楽でそのうえ、足が早いので、短時間で広範囲の除雪が可能という利点をフルに発揮、立ちふさがる白い壁を積極的に排除しました。積雪による交通マヒを防止するため町ではタンブ除雪車、グレーダーで除雪計画に基づき、六万五千メートルの主要幹線道路の除雪を行ない、道路を確保しました。

### 白魔を退治

#### タンブ除雪車 大活躍

一月二十日開かれた臨時議会の席上井沢議長が、議会を代表して今回の豪雪時に町職員は正月休みを返上、不眠不休の除雪作業にあたり道路を確保し、町民の日常生活に不安を与えずにすんだと町に感謝の言葉を述べました。

一月二十日開かれた臨時議会の席上井沢議長が、議会を代表して今回の豪雪時に町職員は正月休みを返上、不眠不休の除雪作業にあたり道路を確保し、町民の日常生活に不安を与えずにすんだと町に感謝の言葉を述べました。

一月二十日開かれた臨時議会の席上井沢議長が、議会を代表して今回の豪雪時に町職員は正月休みを返上、不眠不休の除雪作業にあたり道路を確保し、町民の日常生活に不安を与えずにすんだと町に感謝の言葉を述べました。

一月二十日開かれた臨時議会の席上井沢議長が、議会を代表して今回の豪雪時に町職員は正月休みを返上、不眠不休の除雪作業にあたり道路を確保し、町民の日常生活に不安を与えずにすんだと町に感謝の言葉を述べました。

一月二十日開かれた臨時議会の席上井沢議長が、議会を代表して今回の豪雪時に町職員は正月休みを返上、不眠不休の除雪作業にあたり道路を確保し、町民の日常生活に不安を与えずにすんだと町に感謝の言葉を述べました。



### 成人おめでとぅ 558人が大人の仲間入り

1月15日降りしきる雪の中で恒例の町成人式(写真上)を行ないました。はたち該当者558人は降雪中足を取られたにもかかわらず392人が会場の春小体育館に希望に燃えた元気な顔を描きました。公民館では、新成人者に意義のある成人式を迎えてもらおうといろいろくふうをこらし、そのうえ数か月前から新成人者代表を招いて数回の懇談会を重ねるなど、万全を期しました。式典は簡素な中にも敬肅ムードが漂い江崎町長の式辞、連合青年団長斎藤誠君の祝辞とつづき、そして成人者を代表して笛木アヤ子さんが響い言葉述べるところは最高潮に達しました。式典後はアトラクションに移り昨年好評だった「はたちの記録」発表、フォークダンス、パレール、卓球などを楽しまし有意義なひとときをすごしました。毎年問題とされる女子の服装は公民館、婦人団体の「心の晴れ着」成人式に出席を……」の呼びかけが実を結び、華美な和服がめづり減り、洋服姿(写真下)がこれを上回る好結果を生みました。



この園場整備が終わると近代農業に資する米づくりの合理化が促進されることになっていきます。事業費六百四十四万一千円(県費五十一万円) 良質、多収の米づくり  
●集団栽培組合に補助  
稲作栽培に資する良質、多収による技術の普及を良質、多収に協定作業と機械の共同利用による経費の節減をはかるため、次の各集団に対し、重点技術指導費と活動費の補助に県補助金が交付され米づくりの農家の地域振興を目的とします。  
●農家団体の生産機械共同事業 白山農団栽培組合(代表徳川耕一) 県費十二万円  
●農家団体の生産機械共同事業 白山農団栽培組合(代表徳川耕一) 県費十二万円  
●農家団体の生産機械共同事業 白山農団栽培組合(代表徳川耕一) 県費十二万円

町職員除雪作業に感謝  
一月二十日開かれた臨時議会の席上井沢議長が、議会を代表して今回の豪雪時に町職員は正月休みを返上、不眠不休の除雪作業にあたり道路を確保し、町民の日常生活に不安を与えずにすんだと町に感謝の言葉を述べました。

町双書17集刊行  
千拓史「三湯水抜」後編  
昭和四十二年二月刊行された三湯水抜一件前編(斎藤順作著)に引き続き、町双書第十七集として三湯水抜一件後編(斎藤順作著)が出版されました。前後編とも中絶屋の笛木家に保

町双書17集刊行  
千拓史「三湯水抜」後編  
昭和四十二年二月刊行された三湯水抜一件前編(斎藤順作著)に引き続き、町双書第十七集として三湯水抜一件後編(斎藤順作著)が出版されました。前後編とも中絶屋の笛木家に保

町双書17集刊行  
千拓史「三湯水抜」後編  
昭和四十二年二月刊行された三湯水抜一件前編(斎藤順作著)に引き続き、町双書第十七集として三湯水抜一件後編(斎藤順作著)が出版されました。前後編とも中絶屋の笛木家に保

江崎町長・湯東村長「発足する広域教委」で対談  
27日NHKラジオ15分

江崎町長・湯東村長「発足する広域教委」で対談  
27日NHKラジオ15分

